

令和２年度 かほく市立大海小学校 学校評価（後期結果） R3. 2. 9

重点目標	具体的取組	担当	現状	指標	評価の観点	達成度判断基準 （A＋Bの割合で判定）	判定基準	備考 実施時期・対象	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度判断	改善策	学校関係者評価者による意見
確かな学力の育成と小中連携の充実	①★国語科・算数科の基礎学力の向上を図る	学習指導部	評価テストにおいては良好であるが、個人差があり、支援が必要な児童がどの学年にもいる	成果	漢字テストで8割以上できる 計算テストで8割以上できる	漢字・計算の評価プリントで80％以上できる児童が80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	毎学期末（児童）	漢字テスト 96% 計算テスト 96%				A	・計画を立てて学習するとはどういうことかを児童と共通理解を図るとともに、学年通信等で保護者にも知らせ、習慣化を図る。	・GIGAスクール構想によるタブレットの導入で、いろいろ大変だと思うが、どのように活用していくのか検討し、児童の力を伸ばすために役立てていってほしい。
	②★家庭学習の習慣づけを図る（10分×学年）		家庭学習への意識づけはしてきたが、習慣化・主体的という面では十分とは言えない	成果	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる	10分×学年の時間をクリアした割合が90％以上	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	4月から毎月がんばりカード 7月、12月	がんばりカード 95%				B	・家庭学習調査で達成率の低い児童が誰かを把握し、個別の声かけや保護者に協力を依頼する。	
	③★アクティブラーニングを取り入れる等、一人一人が分かる授業となるよう工夫と改善に努める		自分の考えを持つことができなかつたり、主体的に学び合うことができなかったりする児童がいる。教職員主導で、児童の主体的な学びになっていないことがあるので、分かる授業づくりに向け、研究の重点をもとに共通理解して取り組む	努力 満足	児童の弱点克服のため、研究の重点目標をもとに、授業改善を図っている	教職員のアンケートで90％以上	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（教職員）				89%	C	・学年の枠を越えて授業の相互参観を行う。その際、授業改善のための視点を設け、今後の自分の授業に生かせるようにする。	
	④小中連携の推進を図る		児童・生徒の交流事業、教職員の研修の推進を図る必要がある	成果	校区内小中連携を意識した取組を学期に1回以上行う	交流事業や教職員の研修の回数が80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	毎学期（教職員）				小中連携研修 学校訪問 100%	A	・単元の最初にゴールを示し、授業予定を児童と立てるなど、児童が興味関心をもてるようにする。教師が積極的に英語を使う姿を見せることで、自主的に話そうとする気持ちを引き出す。	
	⑤★英語活動の充実を図る		英語アシスタントと連携し英語に親しむ活動をしているが、さらにその充実を図る必要がある	努力	英語活動に興味関心をもち、楽しい授業になるように創意・工夫をしている	児童アンケートで80％以上 教職員アンケートは90％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	7月、12月（児童・教職員）	85%			100%	B		
	⑥読書に親しむ習慣化を図る		毎月23日前後に親子読書の日を設定しているが、期待値ほど読んでいない	成果	全校朝読書を設定し、学年に応じた図書に親しませ、読書目標（各学年の設定）の達成を50％以上にする	年間1次の数値以上 低は、200冊 3年は、5000ページ 4年は、7000ページ 5年は、9000ページ 6年は、10000ページ	A80％以上 B90%以上80%未満 C:30%以上50%未満 D:30%未満	7月、12月（児童）	90%				A		
学校組織力の強化	⑦学力向上に向けてロードマップをもとに組織的に取り組む	教務部・学校コーディネーター	計画をもとに各リーダーが中心となって改善しながら推進していく	努力	一人一人が参画意識をもって学力向上に向けて自分の役割を遂行している	教職員アンケートの実施で90％	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（教職員）				100%	A	・学力向上の取組を効果的に行うために、必要なスキルを養う内容のOJT研修を計画し、実施する。	・コロナの影響もあり、学校行事が減り不安もあったが、学校だよりやHPで子供たちの様子を知ることができたのは、とてもよかった。 ・大海味噌作りなどの地域素材を生かした活動は今後も続けていってほしい。また、地域の新たな人材も発掘していくとよい。
	⑧地域素材をいかした学習に積極的に取り組む		地域の人材や素材を取り入れた授業が定着し、児童の関心意欲も高まってきたが、連絡調整等、教師の負担は大きい。学校コーディネーターを活用し、地域の人材や素材を生かした学習を円滑に行っていきたい	努力 成果	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材をいかした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90％	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（教職員）				100%	A	・教育課程と絡めた活動や体験の中で、地域の教育力を活用していけるように、今年度の実践を振り返り、記録を残していく。	
	⑨家庭・地域との協働による学校運営協議会の充実を図る		学校運営協議会の運営をより一層充実させる必要がある	満足	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している	教職員アンケートで80％ 委員アンケートの実施で80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	7月、12月（教職員・委員）			100%	100%	A	・今後も、学校便りや学年便り、ホームページなどで、児童の様子を伝えていく。	
	⑩★業務内容の改善に努め、時間外勤務の削減に努める		時間外勤務が恒常化しており、帰宅時間が遅くなっている。また、休日出勤も多い。ワークライフバランスが悪い。	努力	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る	勤務時間調査	A：－10％以上達成 B：－9％未満昨年度より削減 C：昨年同様 D：昨年比＋	7月、12月（教職員）				-4%	B	・業務内容の見直しや教材の共有化などを行い、業務の軽減化を進めていく。	
いじめ・不登校や問題行動の防止と特別支援教育・心の教育の充実	⑪★あいさつを通して他者との関わりを持たせる	生徒指導部	学校でのあいさつは元気に行えるようになっているが、地域でのあいさつが定着していない	成果	家庭や地域であいさつする習慣が身についている	三者のアンケートの評価の割合が80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	7月、12月（保護者・児童・地域）	97%	96%	100%		A		・集団登校時の挨拶はよくできるようになってきた。どの地区も6年生が元気に挨拶をしてくれるので、気持ちが良い。他の学年にも広がるとさらに良いと思う。
				成果	学校内でお客さんに出会ったときにあいさつができる	児童・教職員アンケートの結果が90％	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（児童・教職員）	98%			100%	B	・よりよいあいさつができるようになるために、集団登下校反省会などの場を活用して、どのようにあいさつをすればよいか児童自身に考えさせていく。	
	⑫★いじめ・不登校など問題行動の未然防止に努める		いじめや不登校の事例は少ないが、小さなトラブルや登校泣きが見られ、早期対応している。今年度からはスクールカウンセラーを活用していく	努力 成果 成果	問題行動が起きる前に、積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭との連携を図り、問題解決できるようにしている	教職員アンケートの結果が90％以上 S：「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」「いじめをしていない」が90％ P：「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」が80％以上	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（教職員） 7月、12月（児童・保護者）				100%	B A	・いじめアンケートだけでなく、日頃の些細なトラブルに対しても、組織的に対応・指導・共有し、保護者に伝えていく。（お便りやHPの活用）	
	⑬★特別支援教育の推進に努める		周りの子とうまくコミュニケーションを取ることが難しい児童が友達とトラブルを起こすことがある	努力 成果	特別支援コーディネーター及び校内支援体制を活用しながら、一人一人が自己有用感を感じ、認め合える学級づくりに努めている	教職員アンケートの結果が90％ S：「自分にはよいところがある」が80％以上	A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	7月、12月（教職員） 7月、12月（児童）			100%		A A	・毎月「児童理解の会」を行い、児童の様子や対応策について共通理解・共通対応を図っていく。	
	⑭豊かな心を育む道徳教育の充実を図る		道徳的判断力・実践力の弱い児童がいる	努力 成果	GTや地域の素材を生かした道徳教育を行うとともに、道徳的な判断力・実践力を高めるようにする	S：「道徳で内容項目について考えている」が80％以上 T:道徳の授業を年1回以上公開し、道徳便りや学年便りで保護者に取組を啓発するが100％ また、年間1回以上GTを活用した授業を行う	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満 A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（児童・教職員）	96%			100%	A A		
	⑮異学年活動を推進し、活力ある学校づくりをする		異学年活動は遂行されているが、高学年としてのリーダー性が弱く、異学年のグループをまとめる力が弱い	満足 成果 満足	学級活動や学校行事などに楽しんで企画したり参加したりしている 進んで人の役に立つことをしようとしている	アンケートの結果が、児童が80％以上・教職員が90％以上 S：「毎日学校に行くのが楽しい」が90％ P：「子どもは学校に行くのが楽しい」が90％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満 A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満 A100% B90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	7月、12月（児童・教職員） 7月、12月（児童・保護者） 7月、12月（児童）	94%			100%	A B A	・「みんなで何かをするのは楽しい」と実感したり、仲間意識を高めたりすることができるよう、活動やイベントを子どもたち主体で発案、運営できる機会をつくる。また、よさ見つけなどお互いを認め合う活動を行うなど、学級活動の内容を工夫する。	
	⑯★家庭と連携し、生活習慣の定着と運動能力の向上を目指す		朝ご飯の意識は高まってきたが、その他の健康管理意識が未だ向上していない	成果	身の回りの清潔に自分で気をつけて取り組んでいる	毎週水曜日の清潔検査で80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	毎週水曜日（児童）	98%				A	・良い生活習慣の定着が弱い児童には、本人への声かけだけでなく、保護者への協力を積極的に求めている。	・はっぱ～貯金の取組は学校と保護者が連携して児童の生活習慣をよりよくするための有効な手段である。今後も続けていくとよい。
				成果	食に関する指導計画をもとに、養護教諭等と連携して食育の授業や活動を推進している	児童・保護者アンケート「朝食を毎日食べている」が80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	7月、12月（児童・保護者）	98%	99%			A		
				成果	「早寝・早起き・朝ご飯」を意識して生活できる	学校独自の「はっぱ～貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日以上できたが80％以上	A90％以上 B:80％以上90％未満 C:70％以上80％未満 D:70％未満	毎月第2週（児童・保護者）	朝食 98% 早寝早起き 99%				A B		
	⑰★児童の体力・運動能力の向上を目指す	特別活動部	体力テストの結果は良好ではあるが、一部運動能力が県平均と比べて劣っている種目がある	努力	各学年で決められたスポチャレの内容や目標値に向かって取り組んでいる	学期毎にスポチャレ記録回数の更新数を各学年2回以上にする	A:12回以上 B:10回 C:8回 D:6回	毎学期				27回更新	A	・更新回数は多くなっているが、学年によるばらつきもある。どの学年でも積極的に行えるように、感染予防を踏まえた実施の仕方を提案したり、呼びかけを行ったりしていく。	

★市の重点項目 S:児童 P:保護者 T:教職員